

慶應義塾大学 文学部

教育学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本専攻では、「教育」という視座から人間と社会の諸問題を学問的に探究することのできる人物の育成に取り組んでいる。これからの社会の持続的発展を展望するには、「政治」や「経済」あるいは「文化」や「宗教」などととも、「教育」という視座が極めて重要な役割を果たしていくと考えるからである。教育学専攻では、学校教育というフォーマルな教育に必ずしも限定されない空間、時間、人間の「教育」問題を問い直すことを理念として掲げ、これらの理念に基づいてカリキュラムを構成、教育を実施している。

本専攻において「学士（人間関係学）」を授与される学生は、以下のような資質と能力を有するものとする。

1. 教育に関する諸問題を多角的に探究するための基礎教養として、人文科学・社会科学・自然科学に関する基本的知識と、海外の様々な学問的知見に学ぶために必要な語学力を身につけている。
2. 教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野である教育哲学、教育史、比較教育学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。
3. 教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論（哲学や歴史学から自然科学の方法論に至る多彩なアプローチ）の基礎を身につけている。
4. ゼミナールでの共同研究や各自の卒業論文研究などを通して、「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確であり、教育学上重要な問題について批判的に検討している。
2. 教育学上重要な主要理論、研究遂行に不可欠な先行研究を踏まえている。
3. 卒業論文の研究方法が、教育に関する諸問題を学問的に探究し、自身の設定した目的を達成するために適切かつ妥当である。
4. 卒業論文の内容が論理的で一貫している。
5. 論文の形式が学術論文として適切である。